

霧島山

概況

御鉢付近を震源とする振幅のやや大きな火山性微動が 21 日 04 時 13 分に発生しました。この微動の継続時間は 5 分でした。また、微動直後から火山性地震がやや増加し、21 日に 10 回発生しました。監視カメラによる観測や 24 日に行なった現地観測では、火口内の噴気に大きな変化は認められませんでした。

火口の噴気活動は、監視カメラで時折、御鉢火口縁上に噴気が上がっているのを観測するなど、やや活発な状態が続いています。

噴気活動の状況

御鉢火口内の噴気活動は、やや活発な状態が続いています。監視カメラによる観測では、御鉢火口縁上から高さ 50～200m の噴気が時折上がっているのが観測されました。噴気高度の最高は、4 日と 23 日の火口縁上 200m でした（図 3）。

新燃岳火口周辺では、噴気活動に大きな変化は認められませんでした。

地震・微動活動の状況

霧島山の地震回数（気象庁観測点 A 点）は、113 回（10 月：60 回）で、先月より増加しました（図 1 の ）。

震源が求まった地震は 89 回でした。中旬には、新燃岳の西から北西約 7 km 付近に広く分布しました。また御鉢付近のごく浅いところにも分布しました（図 4）。

新燃岳

新燃岳付近を震源とする火山性地震は少ない状態で経過し、11 月の地震回数は 5 回（10 月：2 回）でした（図 2）。

新燃岳付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

御鉢

御鉢付近を震源とする火山性地震の 11 月の月回数は 22 回（10 月：16 回）でした（図 1 の ）。

御鉢付近を震源とする火山性微動は 3 回（18 日 1 回、21 日 2 回）発生し、継続時間の合計は 7 分でした（図 1 の ）。21 日 04 時 13 分に発生した微動は最大振幅が 26.9 $\mu\text{m/s}$ （東京大学高千穂西観測点、御鉢火口の西 1.1km）とやや大きく、継続時間は 5 分でした。振幅のやや大きい微動の発生は本年 3 月 26 日以来です。

また、微動発生直後から火山性地震がやや増加し、21 日に 10 回発生しました。

地殻変動の状況

GPS 連続観測（気象研究所の観測点を含む）では、各観測点間の基線長には、火山活動に対応する変化はありませんでした（図 6）。

また、気象研究所の 3 点の傾斜計には、火山活動に対応する変化は観測されませんでした。

火口の状況

24 日に御鉢の現地観測を行いました。2003 年 12 月に形成された御鉢火口内の噴気孔(T8,T9)からは依然として勢いよく噴気がでていましたが、前回(9月10日)と比べると、噴気音と臭気が弱まっていた(写真1～3)。

噴気の高さ：50m 噴気の色：白色 噴気の量：少量

噴気音：1（注意深くしていると聞こえる程度）

臭 気：1（臭いをかすかに感じる程度）

噴気温度：78 （T8,熱映像装置による）



写真1 左：2004年9月10日の現地観測で御鉢火口の北東側から撮影
右：2004年11月24日の現地観測で御鉢火口の北西側から撮影

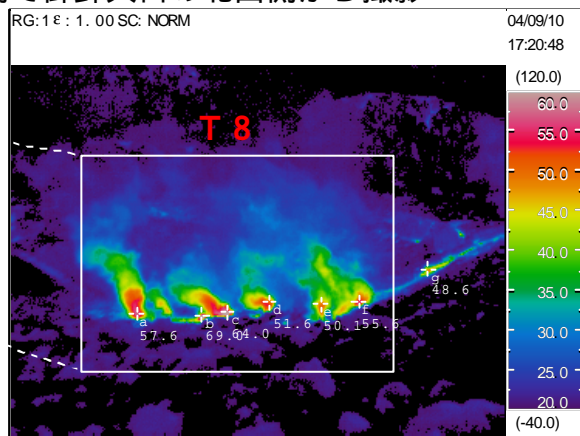
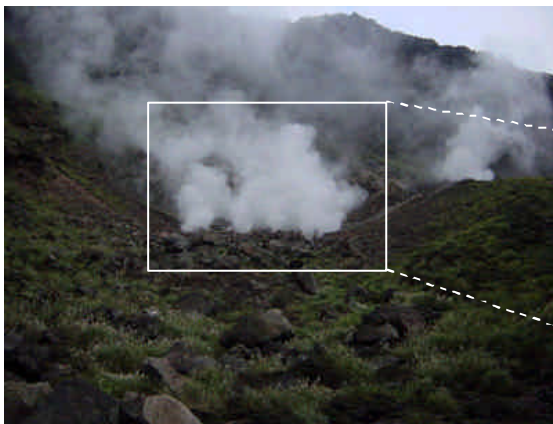


写真2 2004年9月10日の現地観測で撮影した御鉢火口内（T8）の写真と熱映像

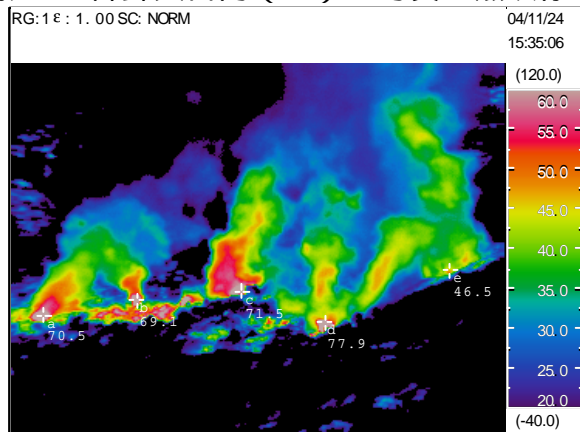


写真3 2004年11月24日の現地観測で撮影した御鉢火口内（T8）の写真と熱映像

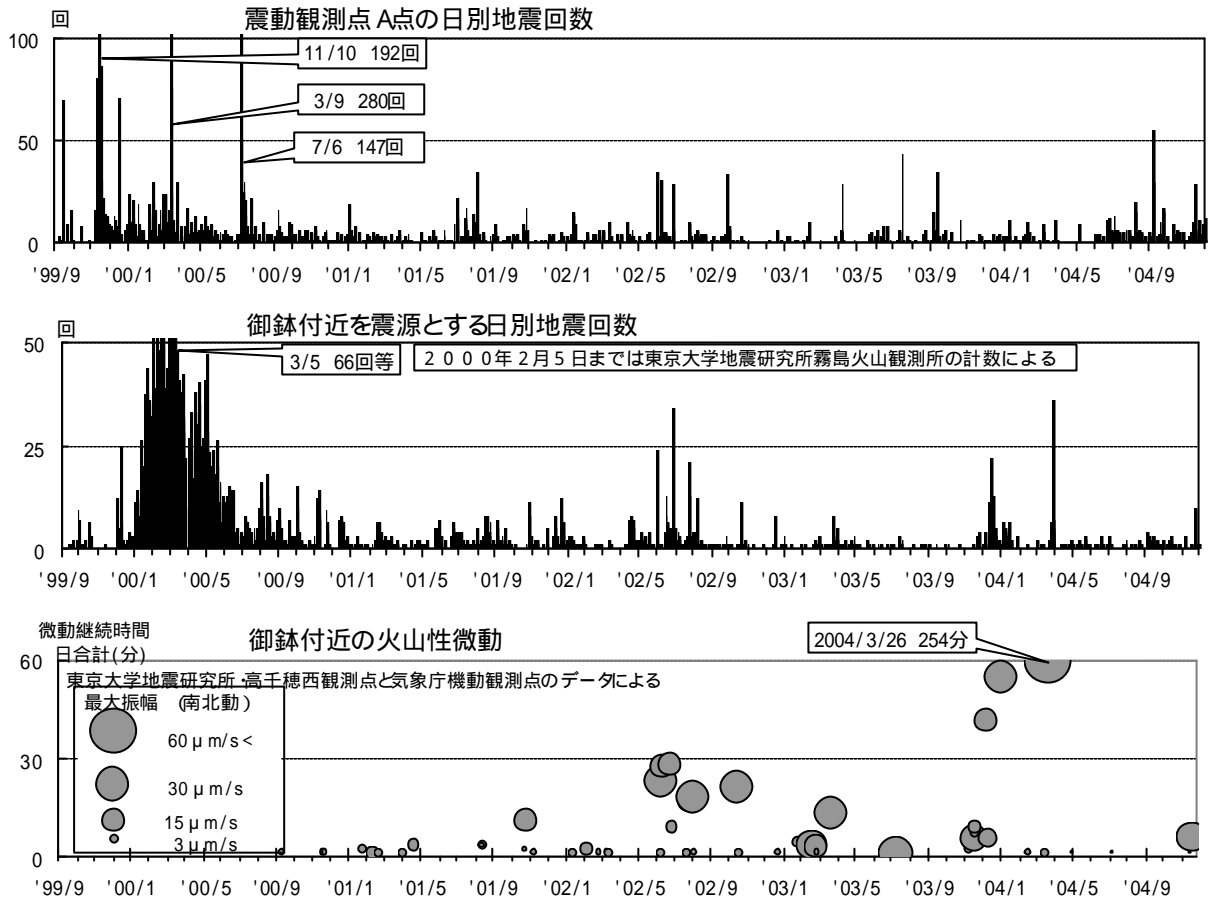


図 1 火山活動経過図(1999 年 9 月～2004 年 11 月)

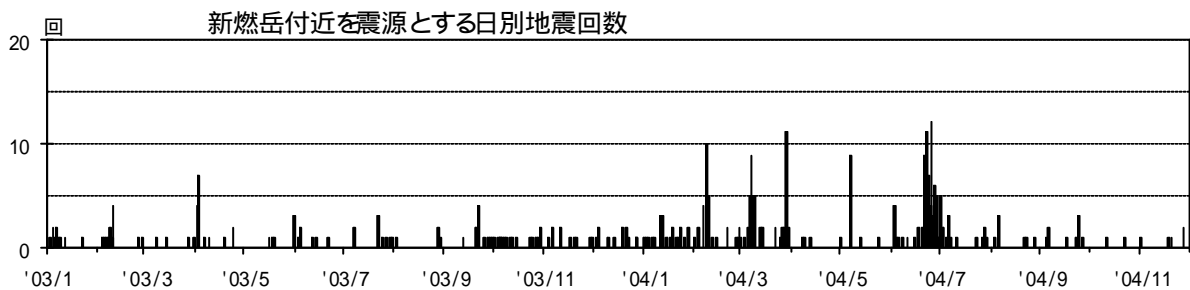


図 2 火山活動経過図 (2003 年 1 月～2004 年 11 月)

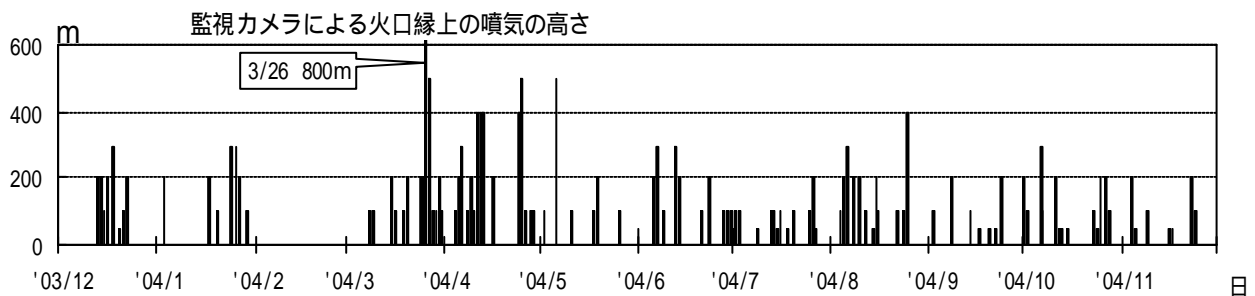


図 3 御鉢火口の噴気の最高高度(2003 年 12 月～2004 年 11 月)

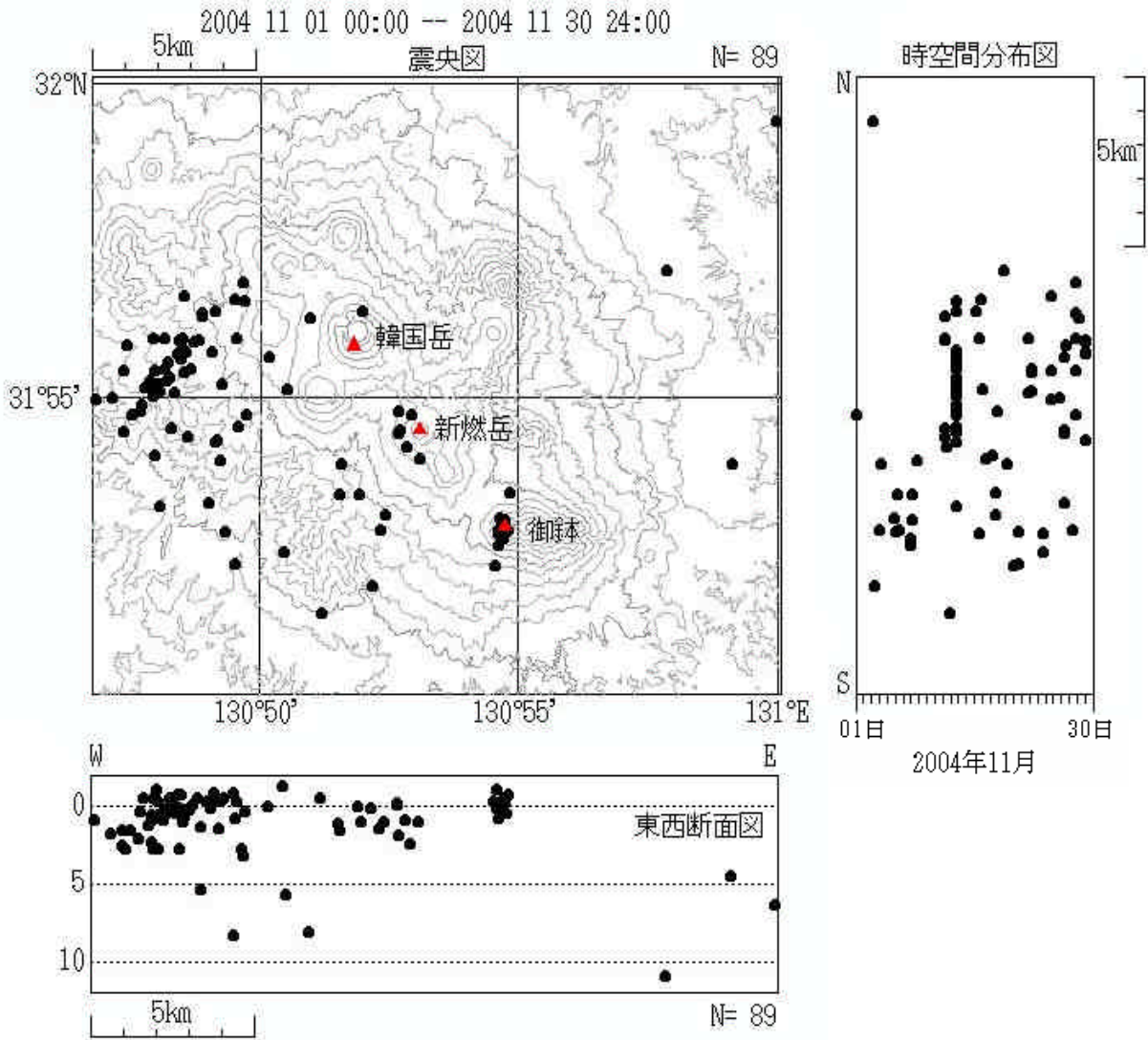


図4 震央分布図（上）断面図（下）時空間分布図（右）
 （2004年11月1日～11月30日）

本資料は、防災科学技術研究所、東京大学、気象庁のデータを用いて作成している。

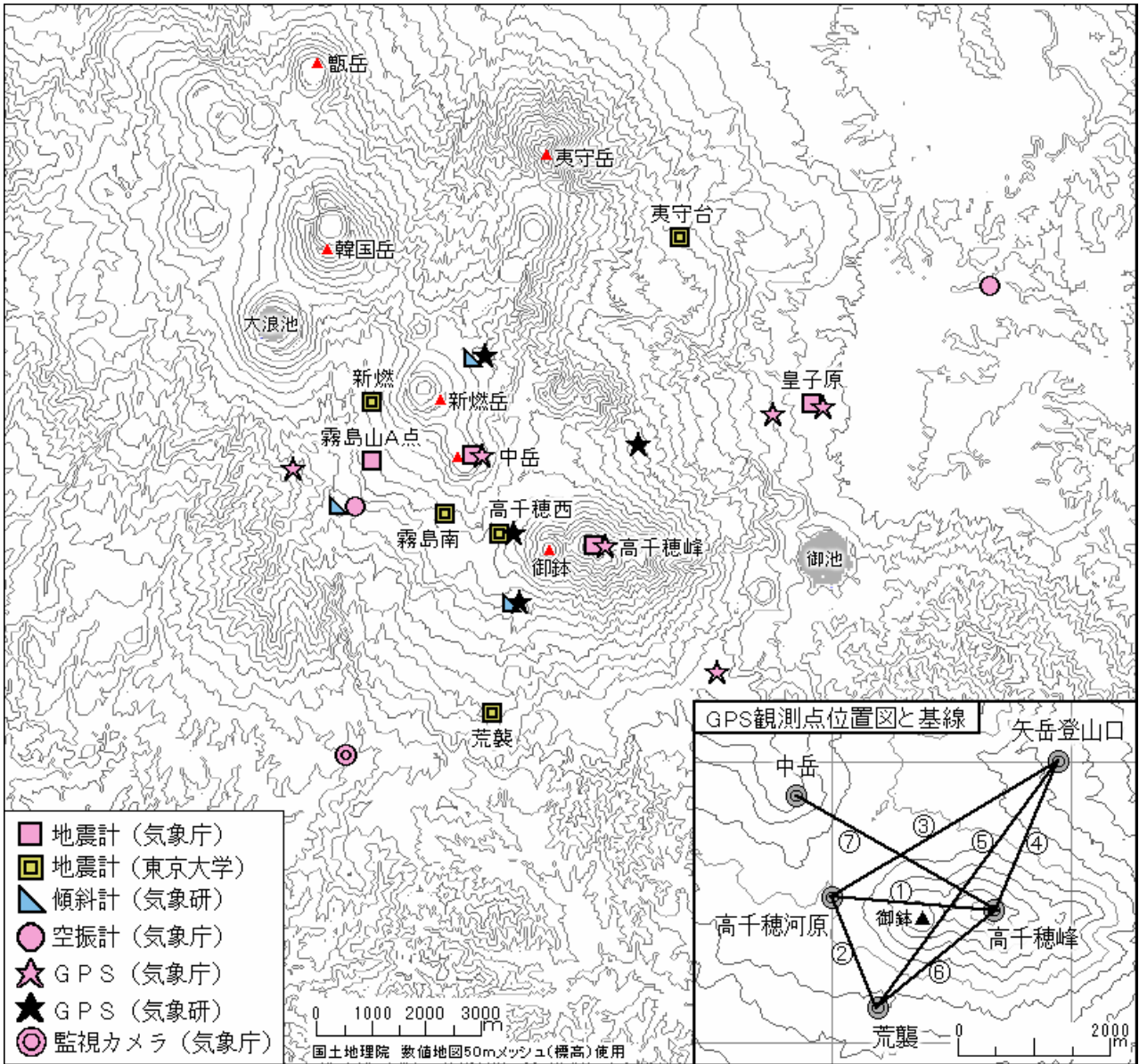


図5 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)

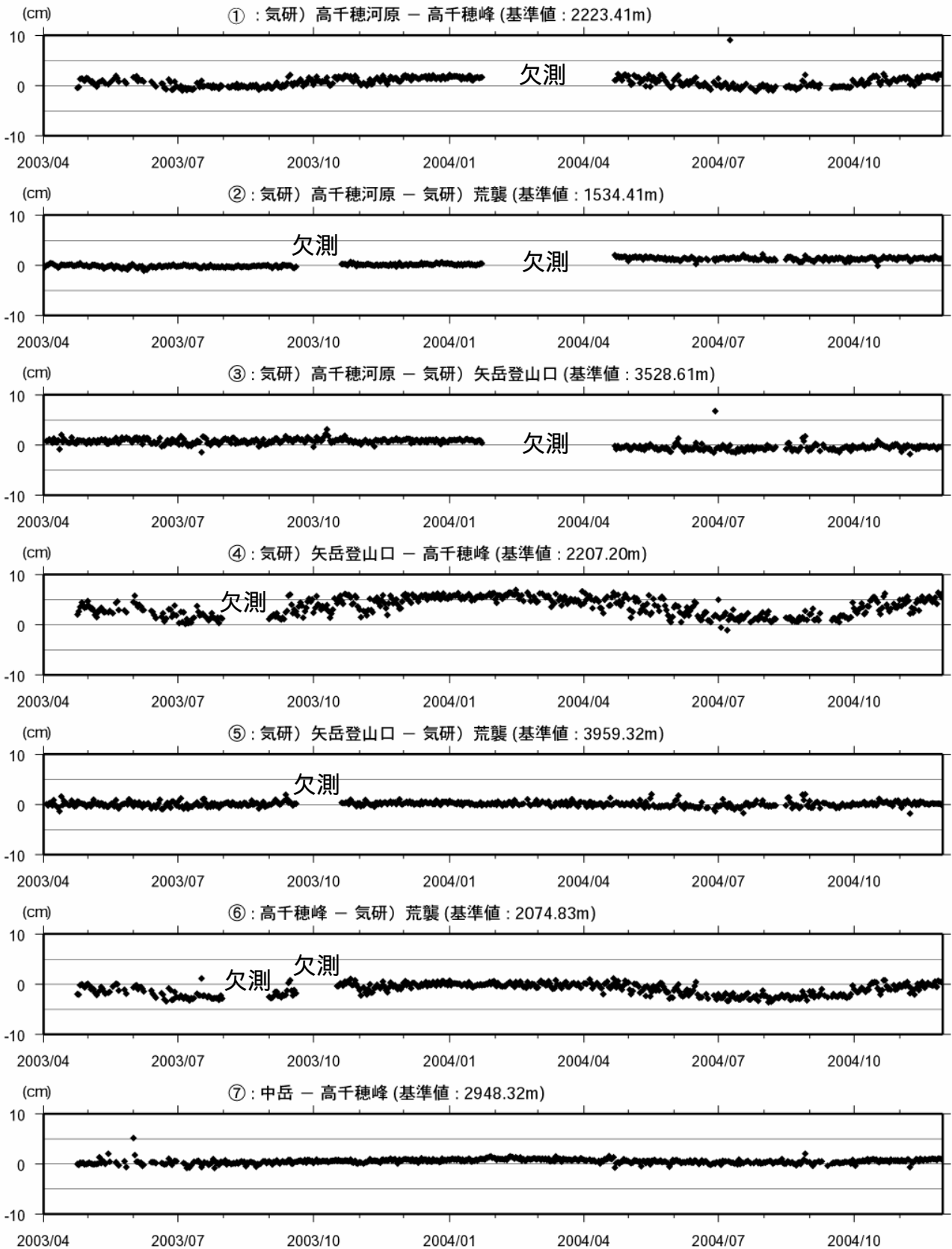


図6 GPSによる基線長変化(2003年4月1日~2004年11月30日)